

歴史散歩

文——多古町郷土史の会

◆第22話◆

熊野神社

高津原五九一番地に祀らるる旧高津原村の鎮守です。

参道から続く石段を上り切ると、重厚な鳥居の奥に、老木に囲まれた本殿が閑静なたたずまいを見せています。

明治二十年に改築された本殿は総ケヤキ造りとなっております。造作は実に見事なものです。

本殿左側には、屋根付きの社があります。これは応神天皇を祭神とする白幡様で、その近くには聖徳太子が刻まれた石柱や、天照皇大神の板碑などが建ち並んでいます。

また鳥居周辺には、灯ろうや手洗い、金剛像と三猿が刻まれた庚申塔などがあり、奥に建つ本殿をより一層引き立たせています。



重厚な鳥居の奥に建つ熊野神社



見事な造作が目を引き本殿



金剛像と三猿が刻まれた庚申塔

熊野山千手院観音寺

高津原八七番地にある真言宗智山派の寺です。

参道から続く石段を上り切り、境内入口に建つ山門をくぐると、その右奥に歴史を感じさせる本堂が姿を現します。

大正五年二月、本堂が火災により焼失したため、現在の本堂は大正十二年に再建されたものです。

本堂内陣には、本尊である十一面観世音菩薩を中心に、大日如来、毘沙門天不動明王、弘法大師などが安置されています。

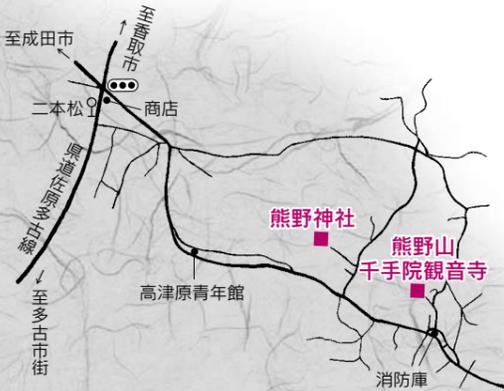
また境内には、その歴史の深さを物語る高さ四メートルほどの宝篋印塔のほか、如意輪観世音像が刻まれた石塔などが数多く建ち並んでいます。



境内に建つ宝篋印塔



熊野山千手院観音寺本堂



「優しくスムーズな連携を目指して」

文／国保多古中央病院 地域医療連携室

平成20年11月1日付けで、病院内に「地域医療連携室」が設置されました。看護師が専任でその役割を担っており、分掌事務は7項目ありますが、大別すると次のとおりです。

【他の医療機関との連絡調整】

近隣の病院などから急性期治療を終えた患者さんの転院依頼があった場合、これまで本院では医師が連絡調整の窓口となっており、多忙な中で煩雑な業務となっていました。

急性期治療を中心に行う医療機関や大規模な病院では、以前から地域医療連携の担当部署が設置されており、担当職員が病院内の連絡調整を担っています。これらを参考に、本院の状況を改善するため「地域医療連携室」の設置に至りました。この結果、医師による連絡調整は、救急を除いて行われなくなりました。

医療連携室同士の情報交換は、切れ目のない医療継続の観点からも非常に重要です。看護師は、患者さんの状況をできるだけ詳細に把握して転院先の医療機関に伝えることで、継続看護に役立てています。

【入院患者の退院支援】

入院患者さんの退院支援としては、



「地域医療連携室」では、入院患者さんに限らず外来患者さんからの相談もお受けします。場所は、病院総合受付カウンター向かって右奥の事務室で、売店側の入口ドアにある「地域医療連携室」の表示が目印です。どうぞお気軽にご相談ください。

まず症状安定期に病棟からの情報に基づいて計画を立案します。その後、ご家族と相談させていただき、在宅あるいは施設入所に向けて調整をします。最近の傾向としては、施設入所を希望されるご家族が多く見受けられます。

【福祉関係事業所との連絡調整と病棟連携】

入院患者さんの大半は高齢者が占めており、その多くが入院前まで介護保険サービスを利用していただくと、退院後新たに介護保険サービスを利用する方が分かります。

どちらかケアマネジャーとの連携が必要不可欠であり、町の地域包括支援センターや保健福祉課の皆さんとの連携も重要です。

「地域医療連携室」では、入院患者さんに限らず外来患者さんからの相談もお受けします。場所は、病院総合受付カウンター向かって右奥の事務室で、売店側の入口ドアにある「地域医療連携室」の表示が目印です。どうぞお気軽にご相談ください。

▲相談日時▼月々金曜日

午前8時30分～午後5時30分

追跡レポート! ——この職業・この人たちの24時間



地球に優しいエコ生活を 太陽光発電システム 取扱店の一日

紹介者：山崎敦史さん(高根)

生コン・総合建材業を営んでいる当社は、7年前から太陽光発電システム事業に取り組んでいます。太陽光発電システムは、太陽光のエネルギーを受けると半導体が電圧を発生するという性質を利用。太陽光パネルの耐用年数は、おおむね20年以上といわれています。

設置に当たっては、導入後の光熱費をシミュレーションし現状と比較。新築・既築を問わず、最大限の効率を得られるよう、最適なパネルの配置を提案します。工事は屋根の支持部分に金具を設け、そこへ架台を取り付けてパネルを載せます。期間は2日から3日程度です。

発電された電力(直流)は、パワーコンディショナを通

し、家庭で使える電力(交流)に変換されます。発電状況は室内のモニターで確認できるので、省エネへの関心も高くなり、余った電力は電力会社に売ることができ。施工後は不具合等がないか、定期的にお客様のお宅へお邪魔しています。「設置して良かった」という声を頂くと、とてもうれしいですね。

今年1月から国の補助金制度が再開、また経済産業省が2010年度に電力の高値買い取り制度の導入を検討しています。家庭内のエネルギーをすべて電気で賄うオール電化と太陽光発電システムを併用すれば、条件にもよりますが、10年位で設置費用の回収が可能になります。二酸化炭素を出さない太陽光発電は、クリーンで安全なエネルギー。環境にも家計にも優しいエコ生活を、これからも地域に根差し応援していきたいと思ひます。



取材協力：(株)安藤産業／撮影協力：京葉銀行多古支店